

日本クリケット協会
5ヵ年戦略 2018▶2022

想像以上の未来へ

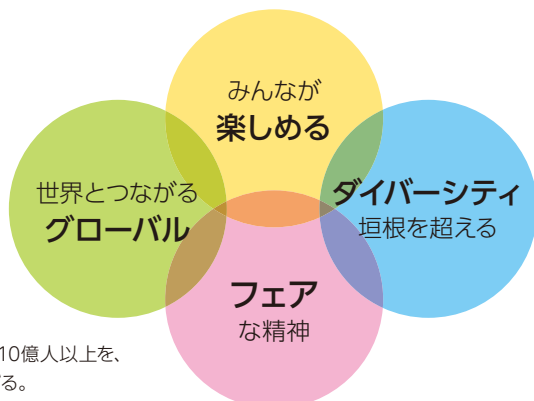


日本クリケット協会 (JCA) の使命とクリケットの価値

JCAの使命 ミッション

クリケットを通じて、より多くの人が健やかで豊かなスポーツライフを実現し、人、コミュニティ、国を近づける架け橋となる。

クリケットの価値 バリュー



世界100カ国以上で10億人以上を、共通の情熱でつなげる。

投げる、打つ、捕るなど多様な場面で多様な個性が活かされ、一球一球の個人の達成もチームの達成も、みんなで祝いあえる。

誰にでもオープンで、敷居が低く、寛容なコミュニティを形成し、性別、年齢、国籍など、多様な人々が、垣根を超えて絆をつむぎあう。

自己申告や判定を尊重し、相手のミスを喜ばないなど、明記されたルールだけでなく、その精神を遵守し、クリケットの精神(スポーツマンシップ)によって、生涯にわたる情熱や友情をはぐくみあえる。

日本クリケットの大木

スポーツを普及・発展させるには、そのスポーツの認知を高め、触れる機会を作り、年齢、性別やレベルに応じて継続してプレーできる環境を整えることが必要であり、それを支える施設、指導者、スポンサーやファンが必要である。一本の木に例えるなら、プレーヤーがたどる道筋が根から幹であり、そのスポーツの健全な発展を支えるのが枝葉である。

2013年から2017年のJCA戦略「A Shining Sport of Choice ~光り輝く魅力あるスポーツ~」では、しっかりとした根や幹を構成するジュニア普及プログラムや大会構造を整備し、関東地方における重点拠点(「クリケットのまち」)に植えることに重点が置かれた。

2018年~2022年のJCA戦略「想像以上の未来へ」では、関東

以外の地域にもクリケットの木の根を張り、幹を育てていくとともに、関東地方に植えた木が立派に育つよう、枝葉を広げていくことを目指している。

特に、初めてでも気軽に楽しめるよう、伝統的な形式にとらわれない、革新的で、ソーシャルな形式を整備することで、これまでにない規模の多くの新しい参加者をひきつけることに重点を置いている。

今は枝葉が不十分で未成熟なクリケットの木が、大木となり、林となり、森となる…今の姿から想像される以上の、大きく明るい未来が見えてくる5年間になるでしょう。





JCA戦略2013～2017年 ～A Shining Sport of Choice～のサクセス

関東の東西南北に拠点が整備された

【佐野】ジュニア普及、指導者育成、国内・国際大会開催、サポータークラブの充実、国際クリケット場の整備の開始などにより「クリケットのまち」づくりが本格化した。

【昭島】ジュニア普及、国内大会開催、サポータークラブの設立などにより「クリケットのまち」としての基盤が整備された。

【山武】グラウンドを確保し、大会開催が進むなど「クリケットのまち」に向けて動き出した。

【横浜】ジュニア普及、大会開催、練習施設の整備により、クリケットの拠点として発展した。

各地で地域協会・地域大会が設立された

北海道、東北、北信越、東海、近畿、九州の各地域において、地域協会の組織化、体験会・指導者育成講習会開催、グラウンド確保、ジュニアチーム設立、ジャパンカップ予選などの地域大会開催、ジャパンカップへの地域代表派遣などが実施された。

ジュニア選手育成プログラムが開始された

サマーキャンプの実施により、ジュニア選手育成プログラムが開始された。

各種大会が整備され、参加チームが増加した

佐野や昭島でのソーシャル(簡易版)大会、U15、U19のジュニアリーグ、各地でのジャパンカップ地域予選、関東での日本プレミアリーグなど、子供から大人まで、初心者から日本代表までがプレーできる大会構造が構築され、各大会で参加チームが増加した。

ジュニア普及プログラムが開発された

小学生向けの体験プログラム、授業プログラム、イベントプログラム、大会プログラムなどで構成されるクリケットブラスト・プログラム(CB)が開発され、佐野、昭島、横浜などで実施された。

東アジアカップが創設された

日本代表を通じたプロモーションや日本代表の強化を目的に、香港、韓国、中国に呼びかけ、東アジアカップが創設された。

クリケットウェアの国内生産・販売が開始された

海外団体とのパートナーシップ(提携)が強化された

クリケットヴィクトリア(CV)との普及事業における提携が強化事業にも拡充された他、Cricket Without Borders(CWOB)との交流事業やマリルボーンCC(MCC)と佐野市の提携による交流事業など、海外団体とのパートナーシップが強化された。

新しいウェブサイトなどにより情報発信が強化された

日本クリケット協会の新しいウェブサイトが完成した。また、Facebook、Twitter、ニュースレターなどの情報発信が強化された。

事務局体制が強化された

新しいスタッフの雇用及び研修、事務所の移設によって、事務局の体制が強化された。

外部理事の登用が進んだ

日本クリケット協会の戦略の実現に必要なスキルを持ち、クリケット界に利害関係を持たない外部理事の登用が進んだ。



現状(競技人口などの)&課題

◀ 競技人口	3,525人(2017年統計)
◀ 競技拠点	仙台・佐野・昭島・山武・横浜・富士・亀岡
◀ SNSフォロワー	Facebook: 5,200人 Twitter: 11,000人
◀ 日本代表	男子: EAP*7位 女子: EAP4位

※ EAP: 東アジア太平洋地域

課題

- 地域協会の自立
- 教員による授業実施
- グラウンドの確保
- 簡易版による競技人口増
- 女子競技人口の増加
- ジュニア競技人口の増加
- ジュニアからの日本代表強化
- クリケットの認知度向上
- ファンの醸成
- 財源獲得



JCAの5ヵ年戦略 (2018～2022年)

2022年に実現したい将来像 ビジョン2022

想像以上の未来へ

2022年までにクリケットは、革新的な形式や機会の提供を通して、これまでにない規模で多くの新しい参加者やファンを惹きつけます。さらに、気軽に楽しめる国際的なスポーツとして広く認識され、かかわる全ての人やコミュニティの夢を大きく広げます。

ビジョンを実現させるための 重点戦略



【日本代表】

次の世代のファンや選手をインスパイアする日本代表を育成する。

【人(人材育成)】

地域協会・大会・クラブの運営者、普及・選手育成を行うコーチ、試合進行を行うアンパイアやスコアラーなどの人材育成により、クリケットの普及発展を担う人材を増やす。

【PR】

クリケットの価値を発信することで、参加者及びファンの増加を図る。特に、グローバルスポーツとして世界に広がる夢や機会について発信する。

【ジュニア】

参加者が初めてでも楽しめる、クリケットブラストプログラムによって、特に小学生の参加人口の増加を図るとともに、ジュニアクラブなどで日常的にクリケットを楽しめる場を提供して、競技人口の定着を図る。さらに、ジュニアプレーヤーが生涯にわたってクリケットに関わる環境を提供するため、それぞれの年代に適するプログラムや大会を整備する。

【ソーシャル】

気軽に(近くで、短時間で、少人数で、安全で、初めてでも)クリケットをプレーし、交流が楽しめる革新的なソーシャルクリケットによって、多くの新しい参加者をひきつける。また、ソーシャル大会間の連携や全国大会などの交流大会などにより、ダイバーシティに富むコミュニティを形成する。

【施設】

より多くの人がクリケットを楽しめるよう、各地域の中心拠点などの戦略的立地にグラウンドや練習設備を整備する。また、その中の重点拠点(クリケットのまち)では、大会だけでなく、普及や選手育成においても重点的に事業を展開し、交流人口の増加、スポーツ機会や国際交流機会の増加、世界とのつながりなど、地域との共生・共栄を図る。

重点目標

競技人口5,000人、「クリケットのまち」5つ

※各地域の中心拠点のうち重点拠点として、地域大会の開催や普及活動をまちづくりプロジェクトとして展開するもの。ここでは、次の3条件を満たすものを目標とする：(1)クリケット用ピッチの常設、(2)ジャパンカップ予選の実施、(3)クリケットブラストの実施

ジュニア

- 100チーム：クリケットブラスト(60チーム)、U15/U19(40チーム)。
- JCAジュニアクラブ会員数：250人。

ソーシャル

- 200チーム。
- 社会人や女性向けの簡易版クリケットの開発。
- 目標となるような簡易版クリケットの全国大会開催。

人(人材育成)

- 運営・指導者の育成：9つの地域でジャパンカップ予選、6つの地域でクリケットブラストが実施。
- 教員研修：100人がクリケット授業を実施。

P R

- 地域メディア、6地域で年3回掲載。
- 全国メディア、5年で10回掲載。
- SNSフォロワー5万人。

施設

- 新しく3拠点到ハードピッチを設置したグラウンドを確保。
- 首都圏に練習・ソーシャル施設を1つ確保。
- 国際・強化拠点を1つ確保。

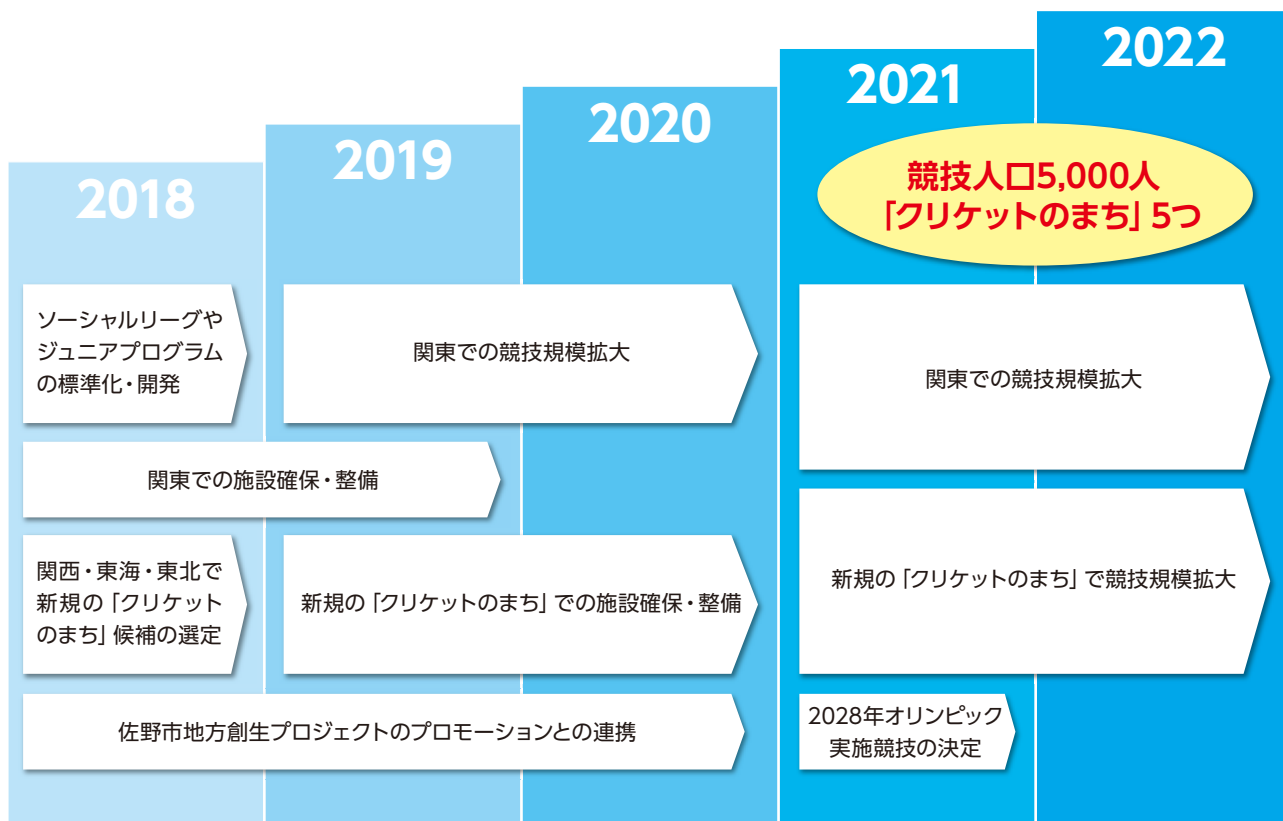
日本代表

- 女子代表：EAP^{※1}大会優勝。
- 男子代表：東アジア杯優勝。
- 日本人プロ注目選手1人(Community Rookie、MCCYC^{※2}など)。
- U19代表結成。

※1 EAP：東アジア太平洋地域

※2 MCCYC：マリルボーンクリケットクラブヤングクリケットーズ

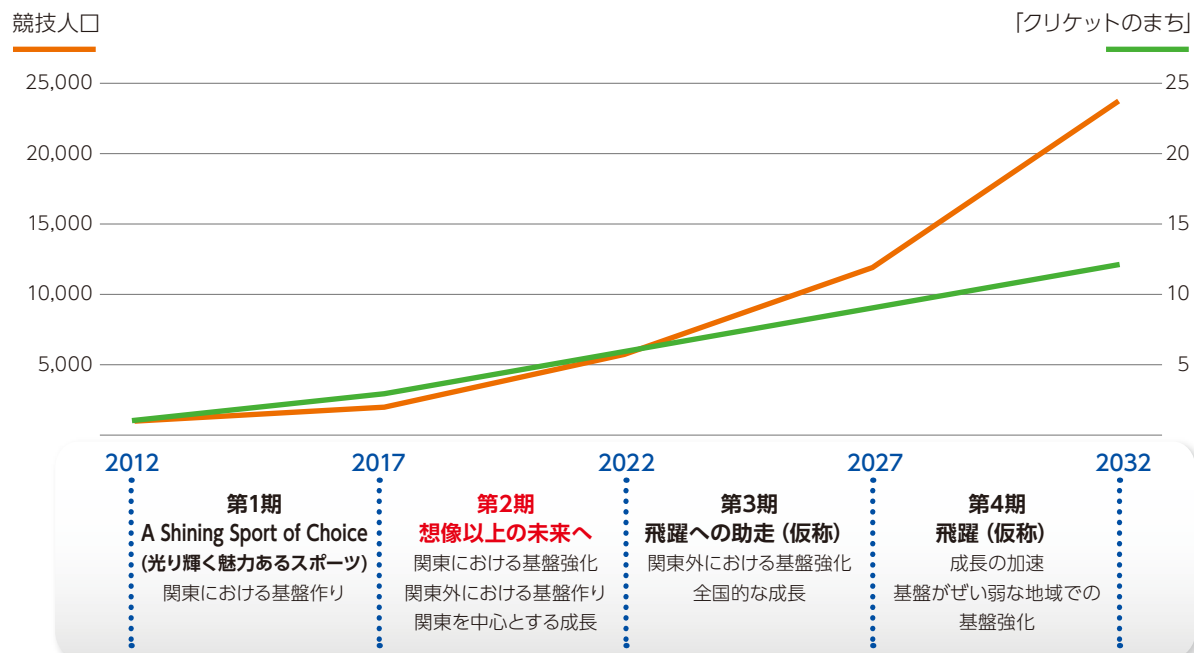
ビジョン2022実現へのステップ



日本クリケットの未来

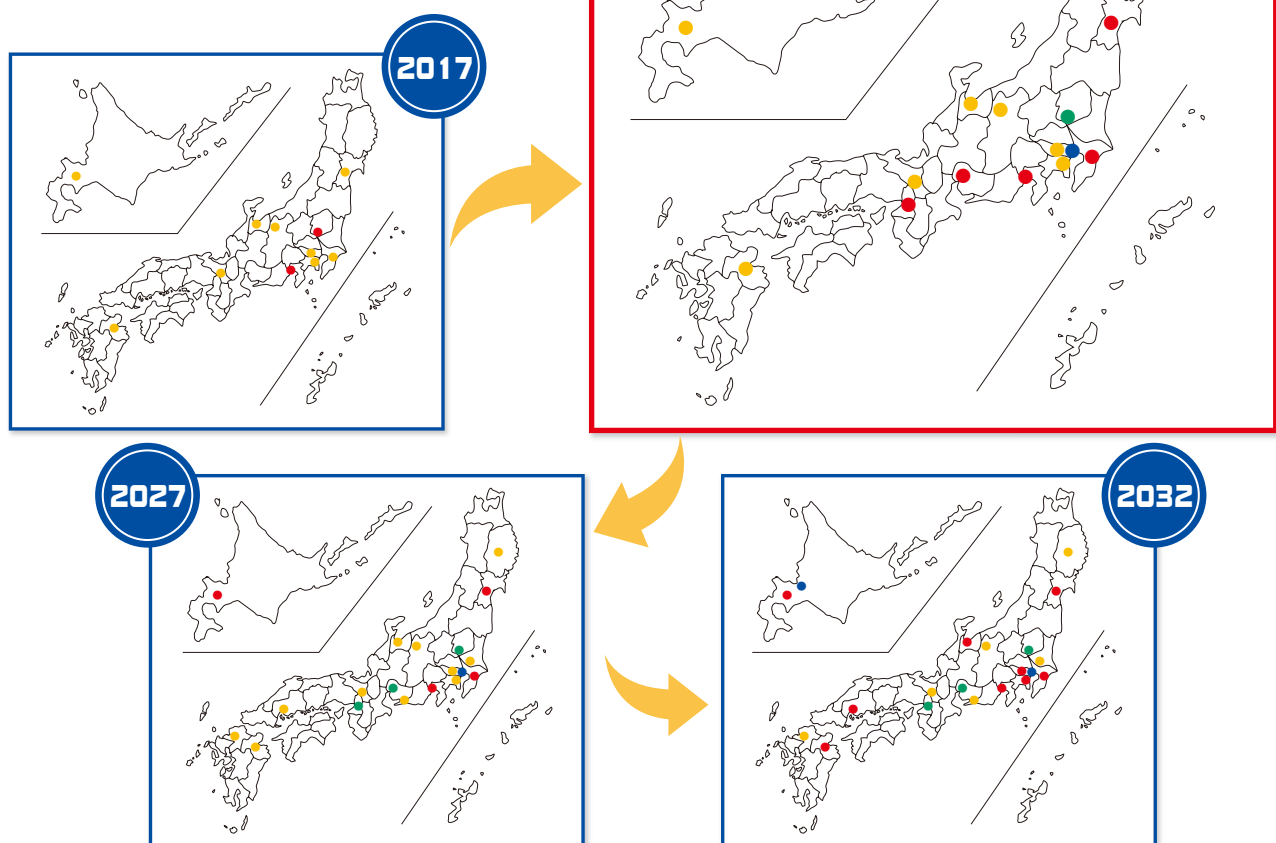


ビジョン2022の位置づけ



大会拠点とグラウンド施設の将来的整備イメージ図

- ハードボール大会が開催されている拠点
- 本格的なグラウンドが整備されている拠点 (クリケットのまち)
- 国際的な施設が整備されている拠点
- 練習・ソーシャルクリケット施設が整備されている拠点





広げよう！ クリケットの輪



